橋脚を洗う白波浅き春　圭舟

陸奥路（くがじ）では、雪解け水が流を速め、森羅万象春に向かって歩き始めます。間もなく花を迎えますが、見る事が叶わない故郷の桜もあります。

福島県富岡町
「夜の森」（よのもり）
の桜並木
（平成19年4月撮影）

３月９日の幹事会

加藤（支）・川口（副）・大久保（副）・柿沼（会計）・涌井・清和・千葉・鴫原・斎藤・菊池・美馬・星顧問・佐藤賢一（自主参加）　以上１３名出席

今年度総会と、新役員のことで協議がありました。下記の通り。新役員はこれで総会に諮ります。（が、決まった様なものです。イヤ、決まりです。）

☆平成24年度総会は5月23日（水）パレスへいあん☆

☆平成24年度役員☆

支部長	美馬五郎
副支部長	涌井進
副支部長	菊池武史
会計幹事	柿沼幸男
会計監事	佐藤友彦
以下幹事	大久保和彦
	大矢一夫
	加藤徹三
	佐藤賢一
	鴫原壮
	清和才二
顧問	星利夫

行事予定

	支　部	みちのく損保
４月１１日（水）	幹事会　４時　総会準備打合せ※	
２３日（月）		ゴルフ
２５日（水）		幹事会
５月　１日（火）		撮影会

※総会の役割分担を決めるので、新旧役員は全員出席願います。
正式に新役員が決まるまでは、旧役員で行うべきところですが、そこは流動的に。
また、役員以外でもお手伝いは歓迎します。「二次会」もあるし。

白井さんの人物往来（５）　　星　利夫

前回(続４)で、正式には８月１４日に、日本が米、英、中、ソに対して、ポツダム宣言の受諾の申し入れを行ったことについて書きましたが、政府にとって次の大きな問題は、どのようにしてこの敗戦を国民へ混乱なく周知徹底するかでした。ここに、天皇の詔勅の発布とそれを天皇ご自身がラジオを通して放送すると云う前代未聞の方策が実行されたのです。一般国民には、１５日正午に重大放送があるとの予告により当日、いずれの家庭も茶箪笥などの上に置いてあるラジオの前に家族皆が,また職場では事務所の書架等の上にあるラジオの前に,やむを得ない要員以外はすべて集まったことと思います。

正午、「君が代」の奏楽の後 NHK の放送員の緊張した声に続き、昭和天皇の玉音（当時天皇のお声をそう云いました）が流れました。「～　朕（チンと読み私の意味。中国秦の始皇帝代より天子のみの自称となる。）ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ対シソノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリ。～朕ハ時運の趨（オモム）ク所耐エガタキヲ耐エ忍ビ難キヲ忍ビ以ッテ万世ノ為ニ太平ヲ開カント欲ス～」。

これは､宮中においてＮＨＫのスタッフにより録音されたテープが翌１５日に再生放送された原文の一部ですが、当時中学校２年生の筆者も、この雑音混じりのラジオの前で、こぶしを膝に緊張して聞いた者の一人です。実に分かりにくい言葉ではありましたが、辛うじてポツダム宣言の受諾、戦争の終結だけが解ったという実態でした。大人達も同様に戦争の終結だけが解ったという状態でした。

そして、８月１７日、天皇陛下は全軍の統帥、大元帥陛下として陸海軍の武装解除を命令しました。旧大本営は、２２５万人の陸軍、１２５万人の海軍を解散させることに全力を傾注しましたが、ソ連による日本将兵のシベリア抑留、南方戦線の残留将兵など郷里の土を踏むことのできなかった多くの日本人がおります。

８月１日に中尉任官し更に本部副官となっていた白井中尉は、終戦処理の一環として、元将校集会所の整理を命じられ、文書・書籍等一切を焼却しました。待機の後８月２５日除隊となりましたが、最後の任務がありました。それは、東北、北海道合わせて３００余名の原隊統率であり、秋田まで特別列車を仕立てての運行で秋田駅前で無事に最後の訓示をしたことです。

白井中尉は、秋田に一泊の上、いよいよ横黒線(当時横手町～黒沢尻町間国鉄線、現在の北上線)経由で中学校５年を通いなれた黒沢尻駅頭に立った時には、一瞬、中学帽子すがたが頭をよぎった。徒歩で、江刺郡稲瀬村内門岡の実家へ帰った。一足早く帰郷した夫人そして御健在の御両親にお会いした時には心から安堵の思いをされたとのことです。

村には、軍隊から帰った復員者、あるいは徴用された軍需工場からの引き揚げの若者たちで次第に賑やかさが戻ってきました。実家には、疎開の家族が身を寄せており、また町方に住んでいた親戚縁者達が、食料を求めて入れ替わり立ち替わり訪れ千客万来の感がありました。村の様相も一変し、果樹園がすっかりタバコの耕作地に変わっている。戦時体制の下、軍部の命令によるもので、農村の社会構造の変化は著しいものがありました。そのような農村でどのような仕事があるのか。当面の課題であった。

そんな或る日、東京の叔父さんから、餅をもって急ぎ上京せよとの連絡がありました。警視庁所管の消防自動車の払い下げがあり、その１台が相去村に寄贈されることになったので、青年団長として餅をお礼のしるしに持参し警視庁へお礼のために上京すると云う趣旨でした。警視庁消防課勤務の叔父が、退官する際に、払い下げの情報を耳にして、相去消防署のために一肌脱いだということでした。

取るも取り敢えず急遽、餅を搗かせてそれをトランク一杯に詰め込み、夜行列車で上野に向かった。上野駅から見た東京は、一面茫々たる焼け跡が広がるばかり。感傷に浸るいとまもなく、構内には、人がごった返す中に、闇物資摘発の警察官が、鵜の目鷹の目で乗降客の持ち物に目を光らせていた。当時、東北の農村から密かに米穀を買い集め、東京方面の町場に運び、高額の値段で売りさばく闇商人が横行していたため、その取り締まりを強化していた。それは闇商売のためか、親戚への支援のためかを問わず、問答無用で摘発されて没収の憂き目にあった者は枚挙にいとまがなかった。余談ながら筆者も、常磐線に乗り浜吉田等へ甘藷の買出しにリュックを背負って行った覚えがあります。

さて、雑踏の中で、案の定、警官の荷物検査に会い、餅が見つかりましたが、とっさに「これは警視庁へ持参するものだ」と言い繕って無事に関門を切り抜けました。警視庁消防課を訪問し、要所に餅を配り、叔父さんと一緒にお礼に回ったとの事です。帰途、兵隊の同期が幕張の寺の住職をしており、訪ねると空のトランクを見て、「これで儲けなさい」と幕張の海苔で満たしてくれました。途中小牛田で下りて、海苔の訪問販売を試みたが、当地は、海苔の産地、松島が近いのと訪問販売のイロハも知らない者のセールスでは一つも売れなかったのは当然であった。消防自動車の導入に、村民は大いに喜んだのは云うまでもありません。日本政府は、当時連合軍最高司令官、ダグラス・マッカーサーの率いる連合軍総司令部（GHQ）の監督下におかれ、その指令を受けて政治が行われていた。連合軍とはいえ、アメリカ軍が中心で,その政策はアメリカの方針であった。

当初の方針は、日本の民主主義化であり個人の自由を尊重することにあり、戦争中不当に扱われていた人、獄中にとらわれていた者の解放そして戦争に駆り立てた戦争犯罪人の処断であった。即ち５大改革、婦人解放、労働者団結権、教育の民主化、秘密審問司法制度撤廃、経済機構の民主化、を強力な推進を政府に迫った。戦争中厳しく取り締まられていた共産党や社会主義政党の活発な活動が始まり労働組合も続々誕生しました。

白井家では、御長男の誕生があり、昭和２０年１２月に、ご紹介により岩手殖産銀行(現岩手銀行)に就職された。単身赴任であり、企画課勤務は、「米・麦などの日常品」のヤミ値段の表を作りこれを支店に情報として流す仕事であった。インフレの進行とともに国内の経済状況が悪化の一途をたどっている推移が一目瞭然であった。世上一般の企業同様、岩手銀行にも労働組合設立の機運が高まり、吉田委員長（後の頭取）の下白井委員も組合運動に奔走しました。

（誌面の都合で次回に続く）

損保クラブ２５周年を迎えて

みちのく損保クラブ　会長　大久保和彦

２５年前、定年を迎えた損保の仲間１０名ほどが、青葉山のゴルフ場に集まりました。懇親ゴルフのあと、おそらく駅前の居酒屋「朝日屋」あたりで損保業界のよき時代を振り返り、懐かしんで酒を酌み交わしたことでありましょう。そして定年後の２０年、３０年という第二の長い人生を、大勢の仲間といかに楽しく有意義に過ごすかが話題となり、「みちのく損保クラブ」を立ち上げることになったと思います。

定年後の人生は、一見すると暇があって友達との親交を深めていく年代ある様に思われますが、実は逆で、友達を定年で一挙に、そして時間を追うにつれ一人づつ失っていく時代でもあると思う。

一人暮らしの老人は突如として発生するものではありません。一人になるまでの過程を眺めると、従来の人間関係に拘り過ぎて、新しい友達を求めようとしない頑固な意識が孤独な環境を作り出すのかもしれません。

友達が来てくれるのを待っているのではなく、積極的に訪ねて行く人間でないと、気がついたら友達はいなくなってしまいます。

心が休まる時間を過ごせる友達が、何人いるかで人生の幸せが計れるのではないでしょうか。

高齢になると、社会や他人と距離を置く人が増えると言われています。目移りするほどの趣味を試して、歳だから出来ないと諦めないで、趣味などの遊びで友達を増やすことが大事です。年金生活者の環境は厳しいものがありますが、不安な時代こそ大勢の友達と、残り少ない人生を大いに楽しみたいものです。

長いサラリーマン生活を終えた、同業の仲間が集う「みちのく損保クラブ」は白井さん、清海さんをはじめ先輩たちのご尽力で、会員２００名を擁す親睦会として今年２５周年を迎えました。

３．１１を境に人とのふれあいと絆の大切さをあらためて言われていますが、このクラブはこれまで多くの出会いを提供し、仲間の輪が広がっています。ゴルフ、麻雀をはじめ多種多様な趣味の同好会が活発に行われています。

昨年の東日本大震災の跡地を見るにつけ、いかに「健康で平穏な毎日を過ごすことが大切で幸せであるか」を感じざるをえません。

ＯＢ会の組織として全国でも類を見ないこのクラブが、皆さんのご協力で大いに発展することを願うものです。